

裁判長
認印



第五号様式(本人調査)

事件の
表示

平成
大五
四年

(ワ)第

三三
五四
五七
一三
九

号

最高裁印 四号の一

本人調査書

(この調査は、第一四回口頭弁論
調査と一体となるものである。)

期 日	平成 八年 五月 二二 日 午前 一時 三〇 分	氏 名	柳	年 齢	一九二八年(以下不詳、但し戸籍上は一九二六年 二月一三日生)	職 業	無職	住 所	大韓民国釜山直轄市東萊区
--------	--	--------	---	--------	-----------------------------------	--------	----	--------	--------------

宣誓そ の他の 状況	裁判長は、宣誓の趣旨を告げ、本人 がうそをいった場合の制裁を注意し、 別紙宣誓書を読みあげさせてその誓 いをさせた。
------------------	---

陳述の要領

表 半

戸

裁判所速記官田中なほ、同田邊直美作成の速記録のとおり

裁判所書記官 此木 田



「陳述の要領」の記載の末尾に、裁判所書記官が記名押印すること。

原本番号 平成六年民第一四号の四

速記 録 (平成八年五月二二日第一四回口頭弁論)

事件番号 平成四年ワ第三四九号等

原告本人氏名 柳 ■ ■

原告ら代理人(山本)

甲第一〇号証を示す

1 これはあなたの陳述書ですね。

間違いありません。

2 金文淑さんに通訳してもらって、あなたが話した内容が書いてあるわけですね。

間違いありません。

3 あなたはこの内容を韓国語で読んで聞かせてもらいましたか。

あります。

4 その内容はあなたの今の記憶と一致していますか。

そのとおりです。

5 陳述書には、私は一九二六年二月一三日に韓国の馬山で生まれました、と書いて

ありますが、これは戸籍上の生年月日ですね。

戸籍上には、二つ多くなっております。

6 二六年というのは戸籍上で、本当はそれより二歳、上ですか、下じゃないですか。
上です。

7 どちらが上なんですか。

戸籍上が二歳多いです。

8 そうすると、本当に生まれたのは一九二八年ということになりますね。

そのとおりです。

9 お父さんは早く亡くなったということですが、幼いころ、あなたはだれと暮らしていたんですか。

兄さんが三人おりましたので、兄さんとお母さんと生活しておりました。

10 お兄さんやお母さんの仕事は何だったんですか。

商売をしておりました。

11 どんな商売ですか。

お菓子とか、あるいは、果物とか、そういう雑貨類をしております。

12 雑貨屋をしていたということですね、生活は、どちらかと言うと、豊かなほうですか、貧しかったほうですか。

まあ、それなりに、それぞれ生活しておりました。だから、まあまあ生活しております。金持ちでもない、貧乏でもない、といったことじゃないかと思います。

13 小学校、国民学校の三年までしか通っていないということですね。

馬山に来たときに、学校入ったときに、もうすでに年をとっておりまして、三年間しか通うことができませんでした。夜間学校に行こうと思ったら、街灯がなかったので、暗くて、怖くて、通うことができませんでした。

14 学校をやめたときは、何歳で。

一一歳ぐらいです。

15 そのあと、どうして暮らしていたんですか。

兄さんが店をやったものですから、お兄さんが外回りをして、中で手伝いをしておりました。

16 挺身隊に行ったのは何歳ですか。

満一六歳で行きました。

17 陳述書によると、あなたを挺身隊に行けと誘ったのは、韓国人の区長だということですが、区長というのはどういう仕事をする人ですか。

私たちの区の区長ですから、班の区長ですから、日本の方たちが言うたら、そのまんま実行してやったと思います。

18 どういう仕事、日本人の。

日本の人たちが言えば、言うたとおりの命令どおりに動いていたということです。

19 日本人の使い走りのようなものという。

多分そうじゃないかと思っています。

20 日本人のというか、日本の役所の使いということですか。

よく分かりません、それは。

21 その区長が家に来て誘ったんですか。

うちにみえてから、勧めました。

22 そのときに写真を持ってきたわけですね。

二つ分けした頭の毛やら、白い帽子をかぶった女学生たちの写真も持っておりまして、働くところもありました、で、大変きれいに見えたんですけれども、そういうところだから行く人を紹介しなさいと言われて、そう言いながら写真を持ってきておりました。

23 女学生が働いている写真、とてもきれいなところに見えたということですか。

きれいに見えました。

24 女学生が生け花をしてる写真もあったんですか。

もちろん生け花もそうですし、ミシンの使い方なども教えますからということです。

25 その写真というのは、どこからだれが持ってきたものだという説明を聞きましたか。

それは分かりません、どなたが持ってきたか。

26 この写真のところに行かないかという誘いだったわけですね。

日本に行けば、こういうところで、仕事もいいし、金もうけもできると
言われました。

27 それが、日本のどこだとか、何という会社だという説明はありましたか。

そういうことは伺っておりません。

28 給料について、何か説明がありましたか。

そういうことは聞いておりません、ただ、日本に行けば金もうけになる
んだということだけ聞きました。

29 そうすると、給料の金額は聞いてないけれども、お金はもうかると、お金はたくさん
くれるという意味の説明を受けたわけですね。

幾らという給料は言わなかったんですけれども、お金もうけはできるん
だとは言っておりました。

30 それであなは、すぐに、行きますという返事をしたんですか。

当時、上の兄さんが少しお酒が好きでして、ずっとお酒で多少迷惑をし
たわけです、それを見たときに、ああいうお兄さんもおっているいろいろ気
持ちも優れなかったものですから、日本に行って気晴らしもするし、お

金ももうけるとお母さんと相談をしたら、お母さんから気持ちらしに行
っていらっしやいと言われて、お母さんからも承諾を得ました。

31 区長の説明は、生け花、ミシンを教えてくれる、お金ももうかるというようなこ
とだったわけですね。

(うなづく)

32 で、あなたの心が動いたのは、習い事とか勉強とかそういうことができるという
ことだったのか、それとも、お金をもうけたいということだったのか、どちらで
したか。

教えてくれるということもいいし、お金ももうけるということ、両方と
も好きだったから、その心で一応決めております。

33 そして、一九四四年の六月に馬山の市役所に集まったということでしたが、正確
には市役所じゃなくて府庁ということだったですね。

当時は府といっておりましたので、馬山府です、今でいう馬山府に集ま
りました。

34 そこに五〇人ぐらいの女性が集まっていたということですが、この人たちの年齢

はどれぐらいでしたか。

十四、五、六ぐらいじゃなかったかと思います。

35 それから、釜山から下関に船で渡って列車で富山に着いたということなんで、すけれども、行き先が富山の不二越だということはいつ知りましたか。

現場に行きまして訓練をする、今という研修と思いますが、訓練をしたり、着いたという手紙を出したり、そのときに初めて富山の不二越だということを知りました。

36 着いた後に知ったということですね。

直接、ここは富山だ、ここは不二越だとは言わなくても、手紙を書いたりいろいろ話をやってるうちに知るようになったと思います。

37 あなたが不二越に着いたとき、既に朝鮮人の女性というのは何人ぐらい来てましたか。

行ったときには、もう前に来た人もおったし、後から来た人もおりました、その寄宿舍の中に全部で二〇〇人いるということでした。

38 今ここに座っている朴さんと朴さんと、その当時知っていましたか。

行って、もう一人の方の■■■さんは知りませんでしたけれども、■■■さんはちっちゃいころはかわいらしくて、こんな小さい子ということに目に付いたものですから、そこで自然と分かるようになって、実はここに来て初めて三人がそろったような気がします。

39

朴■■■さんについては、とても小さい人だということ覚えていたということですか。

だから、相手の言うんじゃないくて、余りにも小さい、かわいかったものですから、あんな小さい子も来ただろうかと、一人で、私個人的にそう思っております。

40

工場でさせられた仕事なんですけれども、鉄棒に旋盤で穴を開けて飛行機の部品を作る仕事ですと書いてありますが、その鉄の棒というのはどれぐらいの太さのものですか。

鉄の棒はちょうど腕ぐらいあります、これからこれぐらいの鉄の棒で真っ黒い棒でした。

41

ひじから手首ぐらいの長さで、太さも腕ぐらい。

そのとおりです、とても重たかったですね、出たばかりで真っ黒です
から、それを、ほかの工程で筋を入れたものをこちらはそれを穴を開け
ますと、皆筋入れた分だけばらばらで出てくるそうです、昔の小銭みた
いな、そういう仕事をやっていました。

42 とても重い鉄の棒だったということですか。

あれはもともとは男性がする仕事です、実に重たくて、そのときは、当
時は一応背は高かったからそうでもなかったんですけど、本当に鉄
の塊は重たかったです、もともとあれは男の仕事です。

43 不二越に着いた後、男性の工員からこの仕事を習ったわけですね。

最初は男性の工員がおりました、毎日研修を受けて、要領を教えて、技
術を教えていただきました、それが全部できるようになって女性が入っ
たときには、すべてその男子の工員がなくなりました。

44 いなくなっただと。

はい。

45 その男性の工員というのは何歳ぐらいの人たちですか。

軍隊に行くぐらいですから、二十過ぎだと思っています。

46 その人たちが、それまでその仕事を受け持っていたということですね。

ええ、そのとおりです。

47 その人たちが戦争に行った後、あなたたちがその仕事を受け持たされたと、こういうことですね。

ええ、そのとおりです。

48 仕事は一週間交替で、昼業と夜業がありと書いてありますけれども、これは一週間は毎日昼間働いて、次の一週間は毎日夜働くと、こういう意味ですね。

一週間続けて、交替しました。

49 さっきのとおりでいいわけですね。

昼一週間、夜一週間。

50 その間立ちっぱなしで仕事をするわけですね。

ええ、ずっと立ちっぱなしでやっております。

51 足が悪くなって入院したことがあるということですが。

足が痛くなったものですから、二十日間ほど入院いたしました。

52 それはどういう病気だったんですか。

病名は私はっきり覚えておりませんが、炎症起こしたものですから、二十日間入院いたしました。

53 炎症起こして立っていらなくなったということですか。

ええ、立っておることができないものですから入院いたしました、病院に行って手術したときにはたくさんのおみが出ました。

54 病院で手術をしたわけですね。

ええ、手術をしました。穴を二つ開けまして、ホースを入れておみを取り出しました、たくさんのおみが出ました。

55 柳 ■ ■ ■ さんも指にけがをしたそうですが、これはどういうことでけがをしたんですか。

あれがちょうどきれいに、その前の工程で筋が入っていて、真ん中開けますと一本が外れるわけなんです、中には外れないものがあつたそうです、だから、手で引っ張ったりしますと、つい手が食い込んだりして、こちらの指がほとんど飛んで縫ってあります。

56 指を。

だから、ドリルが回ってるところに入ってたわけだ。

57 機械で指を切ったということですね。

そうです。

58 その傷は今でも残ってますか。

指の色が、爪の色が違いますね、曲がっています。

59 右の親指ですね。

そうです。

60 日本人の女学生も同じ工場で働いていませんでしたか。

日本の女学生もたくさんおりましたけれども、日本の女学生は皆座ってやっております、それで、一番、早く言えば、楽な仕事をやっていたと思います。私たちは全部立ってやりました。

61 工場とか寮での食事のことですけれども、さっき朴君さんが証言していましたけれども、柳君さんの記憶も同じようなものですか。

全く一緒です。

62 空襲についても、さっき朴■■さんが週に二回くらい空襲警報が鳴って、布団を持ってお寺の庭に逃げたと証言してましたけれども、柳■■さんの記憶もそのとおりですか。

それも、ほとんど一緒に皆動きましたから、同じです。

63 で、柳■■さんの陳述書にはこう書いてあります、五ページ目の初めですけれども、金泉出身のカネムラという年長の娘が作った挺身隊の歌の替え歌をみんなで歌いましたと書いてありますが、この歌は今でも覚えてますか。

大変活発な方でして、結構年も取っておりますし、女じゃなくて男のような活発な方でした、で、その方が替え歌を作って歌ったりするものですから、私も続いて歌いました。

64 この歌詞は今でも覚えていますか。

覚えています。

65 どんな歌詞だったか、ちょっと言っていただけですか。

（「富山来るときうれしかった 一夜過ごせば悲しさよ いつかこの工場去るでしょうか いつか不二越去るでしょうか ああ ああ 陰で泣

く涙は」本人は日本語で歌を歌って」という、こういう歌を歌ってみんなで泣きました。

66 それで、あなたもさっき朴■■■さんが言われてたのと同じように、北朝鮮に行くということで船に乗ったわけですね。

ええ、北朝鮮の清津に行きました。

67 その船は何日ぐらいかかりましたか。

一週間ほど乗りました、全部船酔いにかかったものですから、いつもおなかがすいて御飯御飯と言うた者が、だれも御飯食べようとしなかったそうです、船酔いですから。

68 一週間もかかったというのはどうしてですか。

機雷というのが施設敷されているので、あの中通ったら怖いということで、ずっと迂回うわいをしまして、ずっと島伝い陸伝いをして、海岸海岸通って回って帰ったものですから、一週間かかりました。

69 柳■■■さんも船酔いにかかったわけですか。

ええ、私も船酔いしました。

70

柳 ■ ■ さんが富山で一番つらかったことというのは何でしょうか。

函^{はうだい}体^{たい}が大きかったから何分にもたくさん食べなけりゃいけなかったし、おなかすいたことが一番悲しかったです。

71

沙里院から一時故郷に帰れと言われたわけですね。

ですから、いったん帰国いたしまして連絡があるまで家におりました、で、明日あさってには再び沙里院に行くということで荷物まで整理しておったんですが、二日後に、つまり前に終戦になったものですから、行かなくて済みました。

72

沙里院に戻る予定の二日前に戦争が終わったということですね。

はい。

73

そうでなければ、やはり戻るつもりだったんですか。

もちろん行きます、行くために準備をしておりましたから。

74

最初は、お金がもうかるとか、生け花が習えるとか言って行ったわけですね、で、富山ではそれはできなかったわけですけども、それでもやはりもう一度戻ろうと思ったんですか。

軍人と同じように命令系統ですから、来いと言えば行かなきゃならないことでしたから、行くように準備をいたしました。

75 結局戦争が終わって開放になってそのまま戻らなくて済んだわけですが、給料はもらえたんでしょうか。

いや、それはもらっておりません。

76 勉強とか生け花とか、そういうことはできましたか。

生け花は最初に二回ぐらいちょっとやりましたけれども、勉強は教えてもらっておりません。

77 生け花生け花というのは、さっき朴■さんが言われてたように、見学したということですか。

ええ、さっきと同じように、ただ見て、見学していましたが、それだけです。

78 柳■さんは、今日日本政府に対して何か言いたいことがありますか。

今、日本の方たち、三十代、四十代の方たちは、私たちの当時のことは恐らく考えてもないでしょうし、分からないでしょう、欲を言うわけじ

やないんですけれども、ほんとにつらい目に遭いました、日本政府はそこはやはりよく御推察の上、我々の心をいやす幾らかのそういうものも必要ではないかと私は思います。

(以上 田邊直美)

山口地方裁判所下関支部

裁判所速記官 田中なほ

裁判所速記官 田邊直美

[→HOME](#)